

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	吉田 篤正 (よしだ あつまさ)	
現職	青山学院大学工学部教授 (理学博士)	
主な経歴	理化学研究所前任研究員	
専攻分野・研究テーマ	宇宙物理学 (実験)、高エネルギー天体物理学	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<p><b>【著書】</b> シリーズ現代の天文学 8 「ブラックホールと高エネルギー現象」 日本評論社 共著 (2007 年)</p> <p><b>【論文】 (共著)</b> “MAXI GSC Observations of a Spectral State Transition in the Black Hole Candidate XTE J1752-223”, PASJ, 62, L27-L32 (2010) “Uniting the Quiescent Emission and Burst Spectra of Magnetar Candidates”, PASJ, 61, 109-122 (2009) “An optical spectrum of the afterglow of a <math>\gamma</math>-ray burst at a redshift of <math>z=6.295</math>”, Nature, 440, 184-186 (2006) “A Possible Emission Feature in an X-Ray Afterglow of GRB 970828 as a Radiative Recombination Edge”, Astrophys. J., 557, L27-L30 (2001) “Observation of X-ray Lines from a Gamma-Ray Burst (GRB991216): Evidence of Moving Ejecta from the Progenitor”, Science, 290, 955-958 (2000)</p> <p><b>【委員・役員歴】</b> 宇宙高級研究開発機構有人サポート委員会宇宙放射線被曝管理分科会専門委員 (1999～) 理化学研究所 MAXI 観測推進委員 (2009～) 高エネルギー宇宙物理連絡会運営委員 (2006～2008)</p>	
神奈川県との関わり	2011 年「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」に参加し、放射線検出実験を実演した。	
メッセージ	<p><b>【現在、関心をもっている領域】</b> ガンマ線バーストの発生メカニズム。超強磁場を持つ中性子星 (magnetar) の物理。トランジェント (突発) 天体現象。超高エネルギーガンマ線天体。</p> <p><b>【神奈川県との連携に期待すること】</b> 小学校から高校までの理科教育において、理科の楽しさを知ってもらうための活動に、力を入れていただきたい。また、そのためのきちんとした予算化を期待したい。具体的には科学ミュージアム等の充実を期待する。研究室の観測装置、観測データを用いた啓蒙活動で協力可能である。</p>	
連絡先	〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1 青山学院大学 工学部 物理・数理学科 吉田研究室 電話 : 042-759-6278	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	山口 博明 (やまぐち ひろあき)	
現職	青山学院大学理工学部教授 (博士 (工学))	
主な経歴	東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻博士課程修了 カリフォルニア工科大学研究員	
専攻分野・研究テーマ	ロボット工学、制御工学、情報工学	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Hiroaki Yamaguchi, "Control of a Trident Steering Walker," Intelligent Autonomous Systems 10, edited by Wolfram Burgard, Rudiger Dillmann, Christian Plagemann and Nikolaus Vahrenkamp, IOS Press, pp.6-15, 2008.</li> <li>・山口博明, "ステアリングをもつ3又移動機構の経路追従フィードバック制御法", 計測自動制御学会論文集, Vol.43, No.7, pp.562-571, 2007.7.</li> <li>・山口博明, 森将人, 河上篤史, "5つの車軸と3つのステアリングを有する連結車両システムの制御", 計測自動制御学会論文集, Vol.46, No.6, pp.317-326, 2010.6.</li> </ul>	
神奈川県との 関わり	特になし	
メッセージ	<p>【現在の研究プロジェクト】</p> <p>(車両システムの機構設計と制御) : 牽引車両に複数のトレーラを連結することで大型重量構造物の搬送を可能にする多重連結車両システムの機構設計と制御</p> <p>(波動歩行機械の機構設計と制御) : 生物のヘビのように体形の周期的な変化を変位に変換しその慣性走行により高い移動効率が期待される波動歩行機械の機構設計と制御</p> <p>(交通シミュレーターの開発) : 車両の厳密な運動モデルを考慮することで渋滞現象などをより正確に再現することができる交通シミュレーターの開発</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>神奈川県内には数多くの優良企業が存在し、ロボット工学、制御工学、情報工学の分野に深く関わる企業も多く、これらの事業における問題のソリューションを共同で開発する、あるいは、本学の研究成果を共同で事業に展開するなど、幅広い共同研究が期待される。</p>	
連絡先	<p>〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1</p> <p>青山学院大学理工学部情報テクノロジー学科</p> <p>電話 : 042-759-6326</p> <p>E-mail : yamaguchi@it.aoyama.ac.jp</p>	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	飯島 泰裕 (いじま やすひろ)	
現職	青山学院大学社会情報学部教授	
主な経歴	(株)富士通研究所研究員、金沢大学経済学部准教授を経て、2008年より現職	
専攻分野・研究テーマ	情報科学、情報社会論	
主要業績 (これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>【著書】</p> <p>『北陸地域経済学』日本経済評論社、2007年、共著</p> <p>『金沢地域における知的クラスター形成の戦略』石川県産業創出支援機構、2004年、共著</p> <p>情報処理学会編『エンサイクロペディア情報処理』オーム社、2002、共著</p> <p>【論文】</p> <p>「人物情報クラウドとその未来」『人工知能学会誌』Vol. 24 No. 4、2009</p> <p>「ICT利活用の地域協働と北陸」『金沢大学経済論集』第42号、2007</p> <p>「社会科学からの大学発ベンチャー」『経営システム』Vol. 14No. 4、日本経営工学会、2004</p> <p>「情報化社会時代の地域活性化政策 ～いしかわを例に～」、EVA-GIFU、2002</p> <p>【委員・役員歴】</p> <p>総務省電子政府推進員、金沢市まちづくり専門員、相模原市中央区区民会議会長</p> <p>石川県自治研修センター『政策形成研修』講師、石川縣市町村研修所『現任係長（政策形成）研修』講師、相模原市情報政策アドバイザー</p> <p>(財)地域振興研究所 理事、金沢大学イノベーション創成センター客員教授</p>	
神奈川県との 関わり	特になし	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>キーワードは「ICT（情報通信技術）と社会」</p> <p>ICTによる豊かな社会の創成のため、政策を作り、ビジネスを起こすことに興味があります。特に現在は、iPhoneやAndroid携帯のようなスマートフォンに注目しており、新しいビジネスチャンス、新産業分野の創成、ひいては新たな社会形成の予感を感じています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>今までは北陸の地方自治体や産業界との結びつきが深かったですが、青山学院がある地元との連携を深めたいと考えています。特に大規模都市圏を近くに持つこの地域は、新世代生活やユビキタス社会に相応しく、新たなICT社会の創造へ大きく期待しております。</p>	
連絡先	〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1 青山学院大学社会情報学部社会情報学科 電話：042-759-6113（直通） E-mail：ijijima@si.aoyama.ac.jp	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	阪口 雅弘 (さかぐち まさひろ)	
現職	麻布大学獣医学部教授 (博士 (農学))	
主な経歴	東京大学大学院博士課程修了、東京大学医科学研究所、国立感染症研究所、理化学研究所等を経て現職	
専攻分野・研究テーマ	アレルギー学：スギ花粉症治療用ワクチンの開発	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】阪口雅弘：スギ花粉症のワクチン療法。「花粉症と周辺アレルギー疾患」(斉藤博久監修) 診断と治療社、東京、2007.</p> <p>【論文】Sakaguchi M, et al.: Isolation and characterization of native Cry j 3 from Japanese cedar pollen. Allergy 62, 547-553, 2007.</p> <p>【委員・役員歴】・薬事・食品衛生審議会 食品規格部会委員          ・薬事・食品衛生審議会 動物用生物学的製剤調査会委員          ・山形県衛生研究所 アドバイザリー・ボードメンバー          ・日本アレルギー学会 代議員・広報委員          ・日本獣医学会 評議員          ・財団法人日本皮革研究所 評議員</p>	
神奈川県との関わり	本大学は神奈川県にあり、神奈川県に本社がある動物アレルギー検査会社と神奈川県からの研究補助金「バイオベンチャー人材活用事業プロジェクト」で研究を行っている。	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>スギ花粉症は人だけではなく、犬、猫、猿においても発症が認められている。また、根治的な治療法がなく、多くの国民および動物たちもこの病気に罹患して大きな問題になっている。また、スギ花粉症は日本特有の病気のため、日本でその治療法を開発する必要がある。このスギ花粉症を根治的に治療する安全性の高いワクチンの開発に興味を持っている。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>神奈川県内の大学、病院、会社等の連携が行えるような機会を多く作ってほしい。また、最近の学生で起業家を目指す学生も増えています。大学の学生とベンチャー・中小企業が交流できるような場も作っていただければ幸いです。</p>	
連絡先	<p>〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71</p> <p>麻布大学獣医学部獣医学科微生物学第一研究室</p> <p>電話：042-850-2481 (直通)</p> <p>E-mail：sakagum@azabu-u.ac.jp； msaka0221@yahoo.co.jp</p>	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	伊東 正吾 (いとう せいご)	
現職	麻布大学獣医学部 内科学第一研究室 准教授 (獣医学博士)	
主な経歴	信州大学農学部、麻布獣医科大学獣医学部と同大学院修士課程修了後、長野県の家畜保健衛生所、畜産試験場を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	養豚科学、豚の臨床繁殖学および生産現場のサポート	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】生産獣医療システムIV (豚編) 農文協(2000)、わかりやすい養豚場実用ハンドブック チクサン出版社(2006)、新母豚全書 チクサン出版社(2008)等</p> <p>【論文】①伊東正吾(1999)J. Reprod. Dev., 豚の繁殖技術の向上と普及、とくに豚の卵巣嚢腫の発生要因解明と豚凍結精液の実用化, j21-j30                  ②Michiko NOGUUCHI, Koji YOSHIOKA, Chie SUZUKI, Sachiko ARAI, Seigo ITOH and Yasunori WADA (2010)・・Corresponding author Estrus synchronization with Pseudopregnant Gilts Induced by a Single Treatment of Estradiol Dipronate, J.Reprod.Dev.,56(4),421-427</p> <p>【委員・役員歴】日本獣医学会 評議員、日本獣医師会 理事、日本養豚学会 評議員、神奈川県畜産会非常勤コンサルタント、長野県畜産試験場外部評価委員</p>	
神奈川県との関わり	(社)神奈川県畜産会の非常勤コンサルタントを委嘱されている。2010年度は神奈川県知的財産研究課題を担当し、2011年度は川崎市産学共同研究開発プロジェクトを受諾。	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】                  規模拡大が進む一貫経営主体の養豚場における繁殖性向上は、経営に直結しており、本来は一定以上の成果が得られたうえで肥育技術や衛生対策の対応が求められる。現状では衛生問題が大きな課題であるが、将来的には、繁殖技術の向上と開発は極めて重要と思われ、この点で、大学と生産現場とのより有機的で機能的な連携体制を構築したいと考えている。また、創薬部門においても、実験動物としての豚の存在価値が急速に高まっており、養豚科学の関係者として最大限の寄与をしたいと計画之中である。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】                  かつての神奈川県は、日本の養豚業界を牽引する地域であった。現在は若干様相が変わっているが、国内の主要な企業養豚や関係者が多く存在する。このことから、県全体として関係機関の連携体制を構築することも重要と考える。また、創薬部門などでのベンチャー企業と大学の連携する機会をより多く創出していただけることを期待する。</p>	
連絡先	〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 電話： 042-754-7111 (代表) ext. 246, 042-769-1634 (研究室直通) E-mail : s-itoh@azabu-u.ac.jp	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	浜田 弘明 (はまだ ひろあき)	
現職	桜美林大学リベラルアーツ学群 教授	
主な経歴	相模原市立博物館学芸員などを経て、2002年に桜美林大学資格・教職教育センター助教授、2007年より現職	
専攻分野・研究テーマ	博物館学、文化地理学	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【共著書】『新編博物館概論』同成社、2011 『相模原市史 現代通史編』相模原市、2011 『米軍基地と神奈川』有隣堂、2011 『高度専門職としての学芸員養成～大学院における養成プログラムの検討』神奈川大学 21世紀COEプログラム成果報告書、2008 ほか</p> <p>【編著書】『博物館学資料「鶴田文庫」の整理・保存と公開に関する調査研究』平成19～21年度科学研究費補助金研究成果報告書、2010</p> <p>【委員歴】 文部科学省学芸員養成に関するワーキンググループ委員(2007～2009) 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員(2010～) 豊島区文化拠点整備計画策定委員会委員(2009～) ほか</p>	
神奈川県との関わり	相模原市史編集委員・愛川町郷土資料館運営委員ほか、大和市・座間市・綾瀬市・海老名市・厚木市・藤沢市などで文化財・市史関連委員、講座・研修会講師を担当	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】 神奈川の石仏研究及び、人文地理的観点から見た現代史研究 公立博物館における市民・地域・学校との連携について 高度専門職としての博物館学芸員のあり方とその実践的養成について</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 神奈川県は博物館先進県として全国をリードする存在であり、一層の博物館活動の充実に向け、博物館相互や地域の大学との連携強化に期待したい。更には、地域の文化遺産を保護・継承する人材や、高度な専門性を持った学芸員の育成にも期待したい。</p>	
連絡先	〒194-0296 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学リベラルアーツ学群博物館学専攻 電話：042-797-8129(浜田研究室直通) E-mail：h-hamada@obirin.ac.jp	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	和田 昌樹 (わだ まさき)	
現職	桜美林大学総合文化学群准教授	
主な経歴	ダイヤモンド社雑誌編集長、広告局長 学習院大学非常勤講師	
専攻分野・研究テーマ	情報デザイン論 地域住民参加型デジタルアーカイブの研究	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】</p> <p>「いつも相手の立場になって考えなさい」(単著) 1999/03 ダイヤモンド社  「知りながら害をなすな」(共著) 2004/10 ダイヤモンド社</p> <p>【委員・役員歴】</p> <p>2003/04~2004/03 財団法人データベース振興センター「データベースの個人情報保護に関する調査研究委員会」 審議委員  2004/04~2005/03 日本データベース協会 副会長  2008/08~2009/10 横浜写真アーカイブ実行委員会企画委員  2009/10/26~2010/03/30 地域住民参加型デジタルアーカイブの推進に関する調査検討会委員</p>	
神奈川県との関わり	特になし	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>家族アルバムに残された庶民の暮らし(常民文化)のアーカイブ化  市民メディアを活用した街づくり、街おこし</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>庶民の暮らしをアーカイブするシステムを構築し、市民参加型の運営ノウハウを共有することで、県下の街づくり、街おこしに役立ちたい。</p>	
連絡先	〒194-0296 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学総合文化学群 電話 : 045-797-2661(代表) 045-797-9995(直通) E-mail : m_wada@obirin.ac.jp	